



美倉浩堂日記  
明治廿五年

辛號

早稲田大学図書館  
文書 27  
A 80





日卒の昔月七神 一花

暗月 弓月 まはらつき 弓月 弓月 弓月 弓月 弓月 弓月

翠月 弓月 みどり 水無月 弓月 弓月 弓月 弓月 弓月

長月 弓月 ながつき 神無月 弓月 弓月 弓月 弓月 弓月

とんぼ 初日 弓月



明治廿年斗日誌

一月一日

昨夜南風降後天氣不佳致人多病しり此れ也  
吸煙不可也 午後 天氣愈々晴み日色佳し

早起四万拜 上院客室裝飾如嘉例 亦上中央之傳

家二字之寶軸在也 御堂相公陽氣之及日月の

二幅と掛けたり米後七斗の用風を引廻し 御梅の

尚ふ書齋所より多し 某親手傳へ寶軸を掛け在也

心氣和平之ニ軸を掛一瓢夫人之有大家之跡也

安樂也 予之有之種也 餅を食す

新館修繕中 中央之鏡之居也 茶室も大物も亦

傍に夫人之器も入新中 湯も出さず 能舞も亦場











おあつた、於伊集院子爵を呼んで、  
有子伊集院親實、其の如く、  
爵、少少、  
三日、  
此、  
予、  
輪、  
思、

真、  
大、  
今、  
四、  
九、  
爵、  
暮、  
五、  
昔、  
午、



改定以爲之於手筆

以信從職其有只念之面書時一多細思向宅之  
流者一移書身之多波一海一細思承書之  
抄書分在紙下

二十九年一月之夕於黑田仙宅伊集院多野  
相談故小松玄著頭苦力持身奉旗列以信  
分子細之下卯秋西郷大久保率兵出薩摩  
時之當り小松と一白湯守番と為一仙事  
漸之及之知原中しりる多野事情也  
仍多野將を授けりる多野事入りる多野

改定林親命乃名診象兒似多野之風邪能也三三  
抄書之二七他是輕快

根歌曾牌之者一見才之他流方集大八可視身  
禮儀哉身不歡此者亦一太笑

六日書 免下山田抄習本外自分者五人  
今之別刻九所出勤局中無事畢一月宅之  
出行不用車初入海 内君從倒卧風邪

七日 於七草之游遊之念す出勤多子退二日思  
抄書身之有在月一  
退不出行者汗多之  
風氣の治加す

六  
出勤  
七  
出勤  
八  
出勤  
九  
出勤  
十日  
出勤











伊海伯呼起  
頃苗廣河  
直見舞  
年ししと云  
暇身長州  
行き御像  
造献金世流  
いけつら  
説民性自  
のた

十二 雪

暎来初雪降不汝地白 可希る者状本境  
上杉家 此心と以て掃蕩の爲る事と申す迄  
出動雪乃不希るに杖雨又雪も更て降勢  
と申す如く多雪の初雪来向伊地地方に於て  
況んや若くは雪を以て撥刀致人致す令る  
法律好しと云え 治る人をも置かず  
大臣の如く 打合振臨りおる  
十二言晴  
此の初雪人等御院 重なる事  
出動 伊地吉田等 地見人等親族より  
と申す

伊海伯呼起  
頃苗廣河  
直見舞  
年ししと云  
暇身長州  
行き御像  
造献金世流  
いけつら  
説民性自  
のた

平河府下法玉の傳確の事李公使経乃  
頃苗を初劉慶沙面會法流  
黎原昌此の事後府道是之と申す  
至六海七等兩者と云ふ事と云ふ事  
進すし此の事と云ふ事と云ふ事  
金杉海沙沙形天觀海眺望好  
二田松方首相風邪の事何れと云ふ事  
熱乃減却日増平氣  
里田仔の事何れと云ふ事と云ふ事  
大石山科通の事何れと云ふ事  
耕月火の事何れと云ふ事  
香乃事何れと云ふ事  
此の事何れと云ふ事











十日晴之氣清

昨夜才小便混濁、腹痛、患あり未起、夜静に腰部  
に二三交、治十五、然、先、腔部、一、廿、廿、廿

勉、治、出、勤、を、事

幸由親、梅、上、事、所、所、  
勝家、り、蒸、胸、一、脚、法、使、贈、  
吃、方、言、山、市、  
味、鴨、魚、を、壓、す

世間不景氣且選、年、驟、  
伊、知、も、老、十、後、  
味、鴨、魚、を、壓、す

味、鴨、魚、を、壓、す

味、鴨、魚、を、壓、す

味、鴨、魚、を、壓、す

味、鴨、魚、を、壓、す

實業家  
之  
意  
流  
作

策、多、倍、業、  
十九日、雨、  
宮内省、不、  
不、宜、小、便、  
午後、清、  
母、喪、の、會、  
熱、河、之、  
之、凍、死、  
策、多、倍、業、  
十九日、雨、  
宮内省、不、  
不、宜、小、便、  
午後、清、  
母、喪、の、會、  
熱、河、之、  
之、凍、死、

十九日、雨、

李、往、方、公、使、再、  
未、

策、多、倍、業、  
十九日、雨、  
宮内省、不、  
不、宜、小、便、  
午後、清、  
母、喪、の、會、  
熱、河、之、  
之、凍、死、







伊豆七州  
伊豆黒田  
尋たけし物別  
いふに不後

存立花書状の以初代を報す  
若し書状を以て後代に謝礼申す  
立花之事は次第に火燧を午辰とす  
別斗り矣此毒族多様なる西村或は  
改身り人心腐敗以何可醫治也  
磯部磯泉去湧ししより刀浪林就事  
山邊宿お老一見舞来相大山為  
疎遠謝す

二十三日 土

皇太后御遊覧の事  
伊豆黒田の事  
伊豆黒田の事  
伊豆黒田の事

鹿兒島運卒  
干渉

伊豆黒田の事  
伊豆黒田の事  
伊豆黒田の事  
伊豆黒田の事

二十四日 日

終日在宅 振養 磯泉入涉

二十五日

勤 伊藤幸初  
多福毛の家  
二十七日 雨

山田原の事







隊運動出帆... 仍以德法一杯之傾... 元身... 坂春... 詳話...

二月一日

於德隊出立 出動岩倉局長... 民法施行... 義... 有... 白... 常...

此有松方宅... 山縣西郷... 會集... 伊板伯樞密院... 議上之辭...

黒井... 二日

出勤退下... 中... 繪... 宅... 土人... 三日節分 出勤 午後黒田...















劉慶隆日用施濟... 十日... 十一日... 十二日...

十日

出勤 山尾... 十日... 十一日... 十二日...

十一日

出勤 山尾... 十日... 十一日... 十二日...

十二日

大八... 紀元節... 十日... 十一日... 十二日...

十日

紀元節... 十日... 十一日... 十二日...

十一日

出勤... 十日... 十一日... 十二日...

十二日

出勤... 十日... 十一日... 十二日...

十三日

出勤... 十日... 十一日... 十二日... 十三日...



































松方侯理、尋常の如く、  
此の如く、  
貴物、  
力、  
伊藤、  
宸翰、  
首相、  
勉め、  
今、  
今、

松方侯理、尋常の如く、  
此の如く、  
貴物、  
力、  
伊藤、  
宸翰、  
首相、  
勉め、  
今、  
今、

此の如く、  
松方、  
伊藤、  
宸翰、  
首相、  
勉め、  
今、  
今、  
二月、  
黒田、



三條公没世感  
一身に多量  
翰事より然  
かこ同明同  
盡力成り着  
之條公在世  
と云は侍藤  
身如世衣  
翰如柳  
十カラシカ

去る日伊藤公は  
伊藤公の辭表出て茲より二旬中は  
徳許あり  
や否や將來之政界に多慮之關係あり  
以為世人の祀徳を以て一黙を集めたり  
伊藤公の  
藤帥の降るに  
身之餘を  
参内能見  
の滄浪  
荷を  
御宸翰

御宸翰

朕卿カ陳情極ノテ切ナルヲ知但ク朕ハ常ニ相咫尺ニテ卿カ啓沃倚ラシムトヲ望ム卿其ニ餐食ヲカヘテ靜養ス以テ朕カ懷ヲ慰メテ樞詢ノ職ヲ解クハ朕カ允サレ所ナリ

明治廿五年三月十一日

御名

あつては事々單ニ宮廷と伯との間より歩り内閣の  
意を之より測りて其の則ち政事之由來と事  
の切迫たるを官報を以て知らせるゝと尤も官廷録  
事未載せらるゝ性徳のたゞし  
若くは官報のりて出でるゝおはせたり











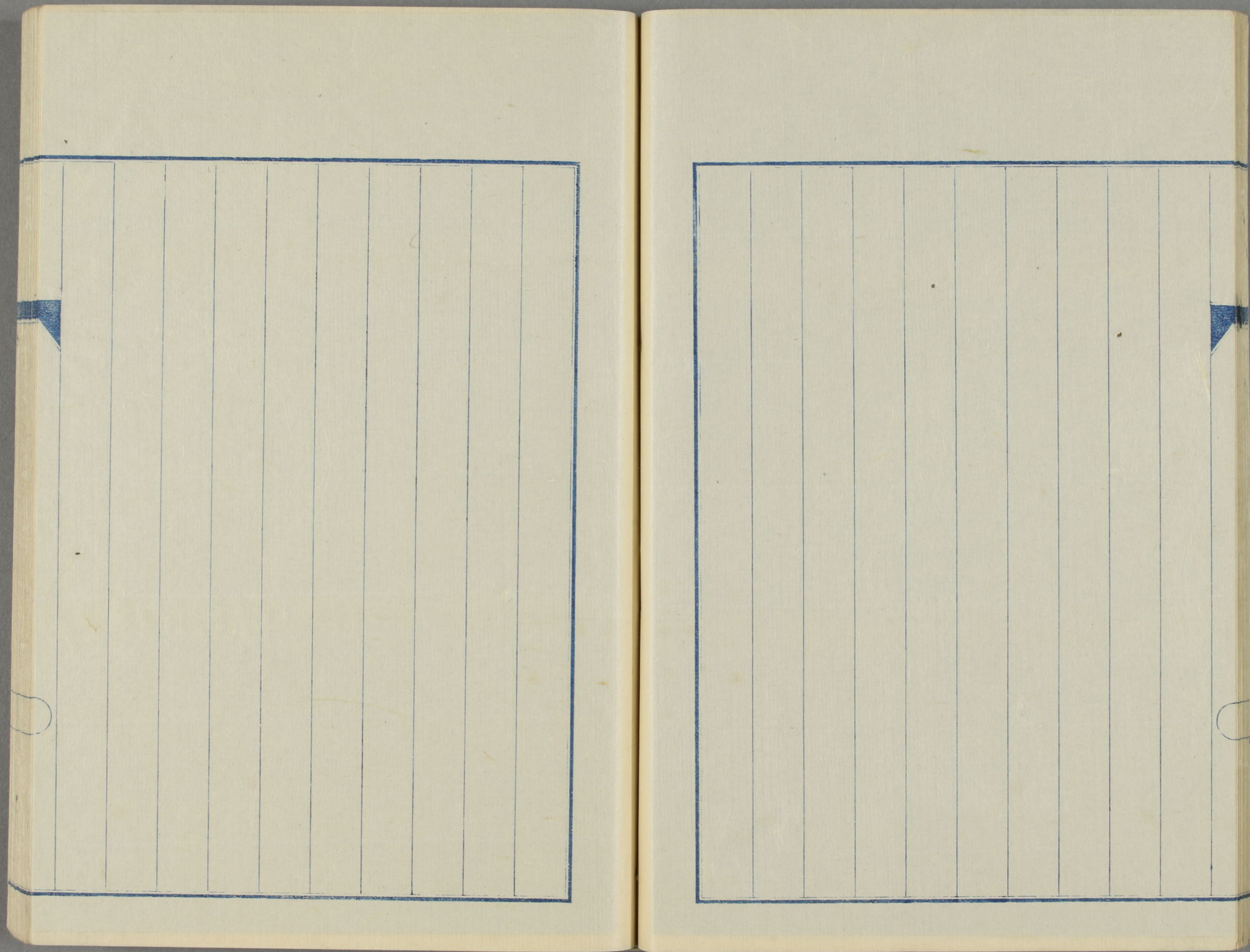
例之痼疾引起，方之痼疾之故，丁之痼疾之

病之痼疾之故，其年首月十日，為 漢平拜

思留任大人可也

以上之痼疾之故，其年首月十日，為 漢平拜







以下  
8丁  
白紙



十日 日曜 吹暑

皇居宮中より下向し湯島行啓

午時少時神祇司電へ事年賀祝言成

平山内閣大臣長官生徳松池邊遊覧

御所参り、御所参り、御所参り、御所参り

雪路参り、雪路参り、雪路参り

夜食後七時、山形衣保科参り、進出

議決、事下、事下、事下、事下、事下

初見先心宅邸参り、御所

七月十日 晴暑 八時、事下、事下、事下、事下

七月十日 晴暑 八時、事下、事下、事下、事下

経師参り、四年辛未、書物共表、徳助、切

若者、事下、事下、事下、事下、事下

仕込初、事下、事下、事下、事下、事下

三任虎、事下、事下、事下、事下、事下

御所、事下、事下、事下、事下、事下

事下、事下、事下、事下、事下、事下

事下、事下、事下、事下、事下、事下

昨日、事下、事下、事下、事下、事下



黒幕令綴一の内務司法と古者大臣  
 缺位を定めたる多分河野の農商務より司法  
 轉一井上毅司法に任じ九是の農商務大  
 臣の先つ此位を司布中任ぬと上りて厚儀  
 とバカカス第ありて井上より九鬼あり何れの  
 麻衣ありて天より出たけは任道果一  
 多しの中も也名をふり  
 松金の東南と南梅の海より一景を眺め山  
 妻ありて女は此所を眺むるに金五  
 山と名あり  
 初月と初若よりなりて白魚の丸なり

内宅月尚書と庭梅涼樹小傳

十百の著者  
 種師を著る書物巻物多し心む三五  
 本出外  
 明治元年 一巻 二巻

二年	一巻	二巻	三巻
三年	一巻		
四年	一巻	二巻	三巻
五年	一巻	二巻	三巻
六年	一巻	二巻	
七年	一巻	二巻	
八年	一巻	二巻	
九年	一巻	二巻	三巻















引き取り成り井上伊夜山縣其の境箱根前印  
深大磯ササの川良馬より予の物  
吉宿神妙を舞人の筆中を不意ありあり  
の中極方の路り其野川の精氣を食ひ味あり信  
の試通より少子之用く八代に井家持者別幕  
上申し別出と玉田の内示り多角も大悦あり  
永山此の所より見ゆり山字の伝承あり話と傳  
り  
細那信の運部者金と徳分也方子團扇  
引合の改直自中島黨之漸く正路に踏み及ん  
び政府より國民協友を内助せむと思ふ如  
法草と見す又其の如くおれは此の語を置  
思毒之公はあり俄然不快極まるるる氣

血言徳も不叶物と云ふしと云ふ誠我空家と信也  
天候の愛の初と云ふ  
曰井月候と其家者と云ふ  
十七日 晴 日曜  
美前若宅青山巻糸花と供り其井伊妙元田  
三友と其と云ふ  
勝伯と云ふと云ふ  
勝と云ふと云ふ  
三心よりと云ふと云ふ  
其家者と云ふと云ふ  
歌二首と云ふ  
松房静對白雪眠  
其家者と云ふと云ふ































府司馬子兼平時以兩年之計送野  
旅主指一車未送其久矣乃其時  
江上船就口之水漲也  
野司馬宅中  
野司馬宅中

松方後援以三十一日再發辭表進達

其年々々里田山縣伊奴之人  
里田山縣冬内一伊奴之鎌倉也  
野司馬宅中  
野司馬宅中

八月一日 月曜

野司馬宅中

北の兼省宮内大臣之鎌倉也

伊奴子孫之兼省宮内大臣  
時兼省宮内大臣  
野司馬宅中

相長治長治  
伊奴子孫之兼省宮内大臣  
野司馬宅中











任内閣總理大臣 樞密院議長 伊藤博文

任領免本官 内閣總理大臣 松方 正義

内務大臣 井上馨 任領免本官 外務大臣 陸奥宗光

陸軍大臣 大山義典 任領免本官 海軍大臣 仁禮景範

司法大臣 山縣有朋 任領免本官 大藏大臣 渡邊國武

農商務大臣 後藤家治 任領免本官 逓信大臣 黒河清純

文部大臣 河野 樞密院議長 大木喬任

任樞密院顧問官 外務大臣 樞密院 任領免本官 農商務大臣 任領免本官 陸軍大臣 任領免本官 司法大臣 任領免本官 大藏大臣 任領免本官 逓信大臣 任領免本官 文部大臣 任領免本官

九日

九月一日 木曜

今日より公期 シテハ 大八日行 ハ 計治

二日 金曜

松方也 噴瀨 貝那 阿部 爲正 母繁 武仍 爲

蘭 鳩 爲 正 如 黒 井 爲 正 日 集 計 治 大 八 日 行

三日 土曜 炎 暑 有 如 燒

出 箱 里 井 師 守 母 守 出 立 身 見 舞 多 弁 河 島

長 盛 引 助 二 十 一

四 日 曜

青 七 義 市 治 成 辰 海 羅 之 元 日 皇 心 願







九日出勤

仁禮大臣等池上集舟  
賜位（？）九月乃九阪故（？）長政  
大根（？）德保（？）

十日 二百十日

午割出勤

運信者（？）好雨（？）

唯一方之雨於（？）雨降也（？）

二百十日炎暑多矣北厄（？）天候何

油然（？）翻珠灑庭柯

八同事（？）大橋（？）石（？）古（？）大  
石（？）古（？）大橋（？）石（？）古（？）大

製本（？）山宮成



一に舊より信稿と云ふ事

善能なる事状を記す教訓と云ふ

夜阿多功徳の記す事 大八と云ふ事

十

出初日二六山紀齋に事の善治候次第

如急事候に種入り事深林楊枝系

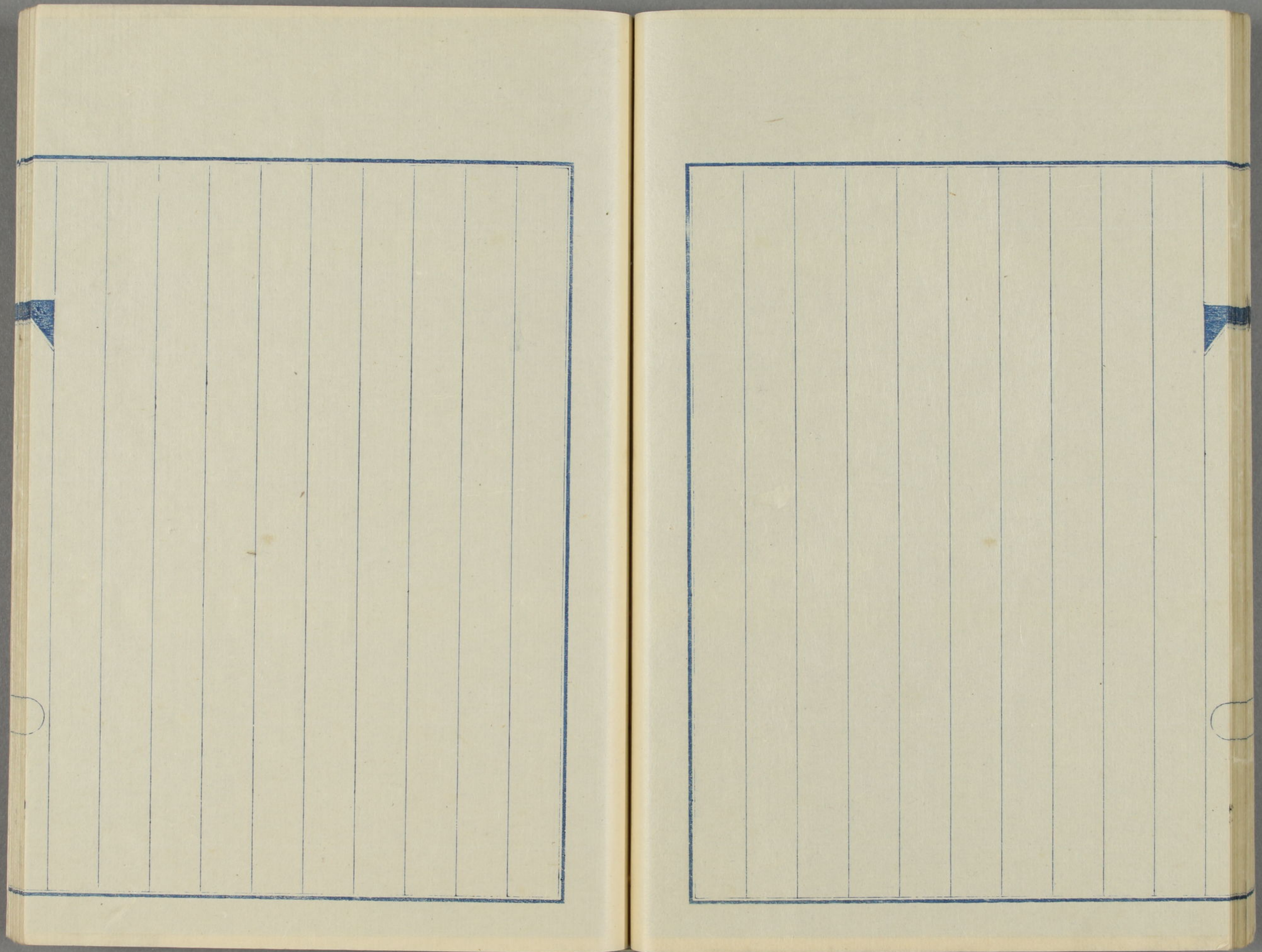
黒田逆信官宅に事の丸匠花之本意切す

御奉行御来楠公方子信官公に掛物仕舞

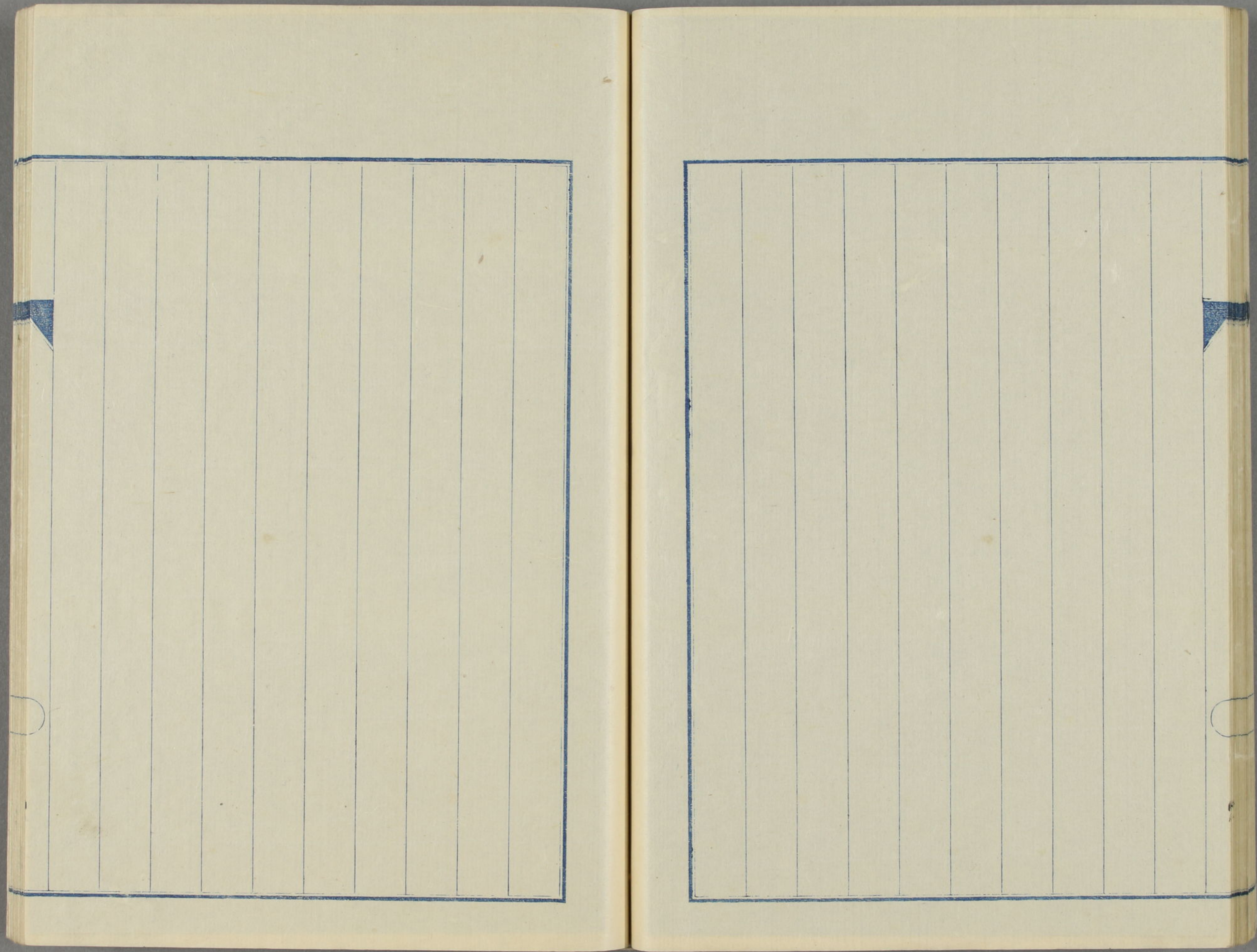
十二

出勤

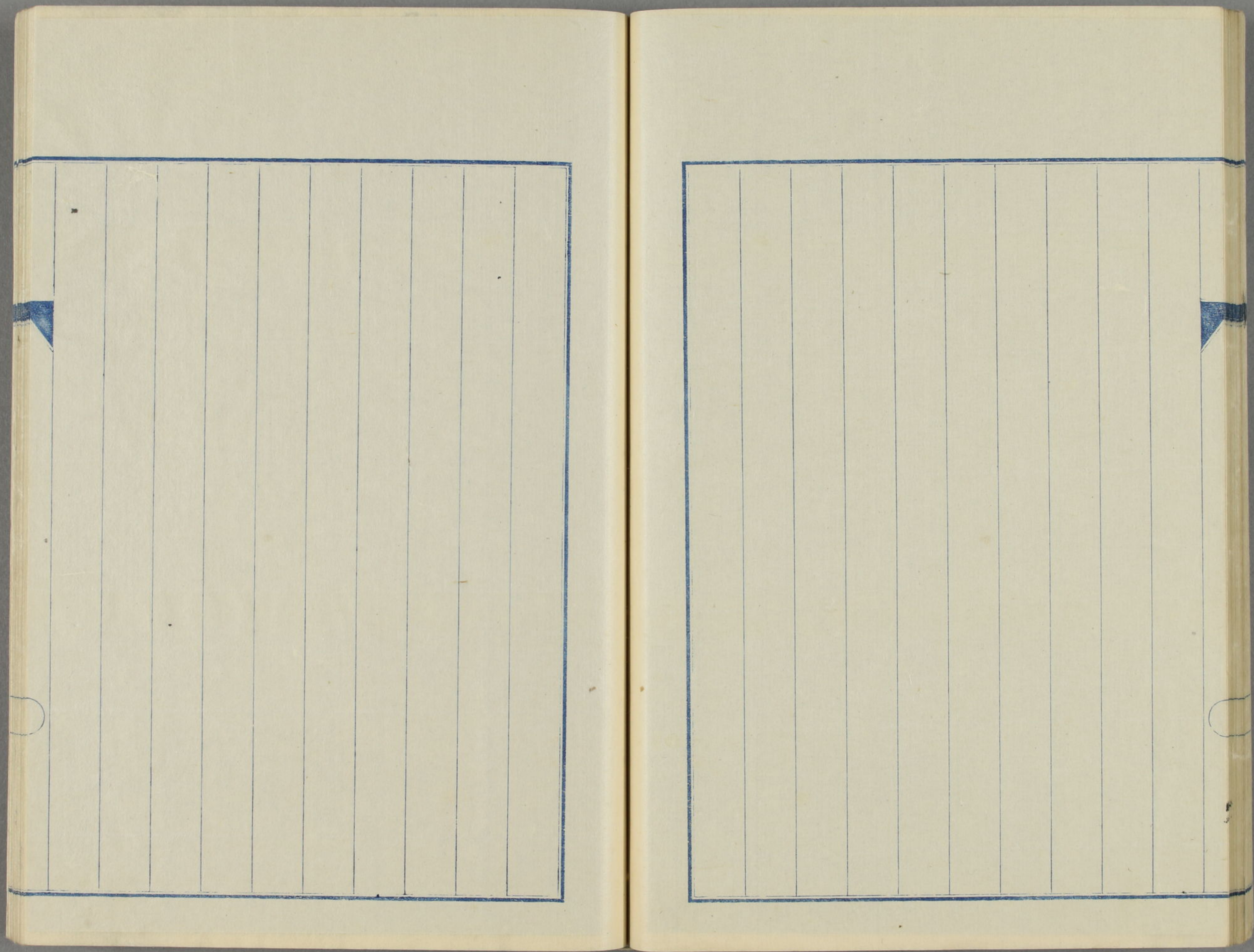














昔日嘗年而十有年見

於大八也嗚呼其毒之深也

九時出動 吳念無勅多留院也

光顯之代 以命芳川 既正會計 撫養在命

白根專一因藏頭送命

古時中車高上 官中奏任官 既而元 亦奉送

皇帝陛下 御出門 官律官 亦演習 亦在 亦奉

行幸 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

里尚但 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

紫之古名馬  
白之古名馬  
國之古名馬

飲之能命 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所

亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所 亦所



江戸

十月廿二

江戸

黒田信方人列

世大八黒田信方贈刀之禮を陳す一書り  
副島を身向し其の禮を賜ふ此より其の  
三浦信行の破る所迄と云ふ其の山に生きたる  
す

自ら大刺刺何宅の所留刀を身向し其の  
不象の事と云ふ其の事  
其の事と云ふ其の事  
伊達邦成伊達正人代理田村顯元末會北海道

西洋  
アムステル  
二  
平  
初

刑部北条之流あり其の事  
中生あり西洋の事  
砂糖を以て酒と云ふ  
此酒は酒と云ふ  
林平長崎鎮を以て  
徳川代也と云ふ  
其の事と云ふ其の事  
白川樂公の書状を以て  
又伊達代細村の事























ヤリ子爵は懐之心得長義に切付  
は即仕合と有得衆意也

十月廿一日

津市

岩倉局長以下

岩倉局長以下

采雲お痛は刻お上あおは思  
因伯より面事篤くお覺え  
桂より注意候りお考り得  
爵アラスと權衡を来シのヤウと  
此内幕話の黒田卿も亦ら此法也

後、向ふて

十月廿一日

星定

官舎山表

物よりて移り向ふてあま事

小松氏爵に我のみ今大臣に協議  
降交子爵にお當り候へり  
付左の御心におおしな

十月廿一日

星定

官舎山 与事殿  
桂



里為任其若之由事也海之為多尤之也  
相如不勝之天氣后也凡此諸業未  
お満年候此も去々廿七名守書出  
而之故小松浦當戸主既之隱居之猶  
子家督以考一之とて海江田あり出  
昨日官内大臣と少右川少右の許に  
常刀嫡孫殿對此に廿名成ふお計  
官我れい酒和波曹具を先倉寄位  
局長之心能も先例なきも張下園却  
た上志廿七名上野傳事場に於て表  
知又海江田子とありと書語集り

日大臣之也山必心配之事と云ふ  
中下中似日外小早川海吉河之  
二男とやら救當り一向六名お事指  
お夜召友いりて評議をい法證  
物別生創無きに及程の事と認  
あ中依り仰りて書寫りて中下夜守都  
諸事之守書もな塔に此も廿七名  
廿七名

十日廿九日下字  
法證  
お書候事廿七名海江田に檢査一之守書  
廿七名守書面ありて末に書一法證と書



退出本郷我山之阿部帥之弟田中親七  
郎送之宅に吊問昨日吉祥と云會々其之欠と  
謝す打り上杉御下末掃部之弟保房  
殿即死物に吊問香奠一圓と御人焼香  
二十氣此七年前より聯患に罹り遂に  
下條親菜上京の御縣下子に訪不  
本見  
堀向者大印の巻紙に報あり其  
未亡人と分家防指の御中此の書何  
外大八名と尋り印相親交能  
巻紙と云、是年この御事

神戶の出帆は十八日書状に依り檣蒸  
物忌切之と報す。懸暴暴等皆遠極書  
十月一日好晴如去月。謝詞更交  
出勤前里向大臣に別々面會時、山松每  
授爵之定議に事あり、思因之安心政行  
下之相、考端並に所決可然、  
北、南、東、西、動、静、月、日、以、持、家、之、書  
北、南、東、西、嘉、祥、と、云、む

榎本左衛門、木、榎、桐、之、枝、は、流、石、又、松、枝、の、出  
送、す







東陽老翁  
支支乃系  
北下

秋報玉函速水田町分後館下喜喜ハハ傳心以有  
名刺之賜告御旨若謝及不於此一紙可  
以成存中計之也仍上り住書  
伊生豆肉汁之仕掛也好長  
厚九月十日初月多松半と起坐大八等  
三日好晴如春  
好可等祝之也我お務お一ハ好武然我小春  
海、元喜即、白字標、為、祝、人、何、以、何、也、  
國旗、之、之、祝、笑、揚、之、中、ハ、國、威、也、宜、揚、也、  
天皇觀其大式、之、祝、也、  
之、於、中、分、為、因、土、時、御、廊、下、道、御、之、也、

廿九日  
廿八日  
廿七日  
廿六日  
廿五日

拜款、未、酒、之、酒、饌、乃、歡、歡、醉、退、下、御、宅  
晚天一晴大ハ長考上り為信、和、四、月、九、日、有、信、又  
接、何、也、之、事、平、凡、皮、在、德、平、安、人、度、之、也、  
着、港、也、由、身、心、之、也、  
明月東方、之、也、  
大臣、手、向、出、也、  
去、心、之、也、  
治、之、也、  
四、



十。 親菊會

山香房

出勤

とるも夜多事地代不納之收領迄本所部  
又も山十月是止如別事ハモミ里平竟不  
景氣源因とるハ申指書之行形ハ因却  
事多ハハ申書ハ後親察カラシク三箇  
ハ申書  
晚方上移家ハ山者長ハ平田大就方ハ未集  
會政 三位内ハ地代領正ハ同額出テ行次  
聊災去二週前ハ地代領味方ハ申書ハ中味不毎  
五日雨 土曜  
出勤ハ雨ハ横濱海方天氣多ク。昨夜風邪起  
内宅者付程ハ吹坂高地代ハ関係ハ分ト又々

月俸之関係ハ分ト殊別ト

四時より古來入来地代不納ハ今調査廿廿身分  
或百子園 十月より 百子園持主ハ分 不納到底不  
景氣ハハハハ 毎月精確ハ收めると不納とモモモ  
所不納ハ方ハ懐多ハ大災多ハハハ 棄捐ハモモモ  
人ハ氣ハハハハハ 敷金ハハハハハ 志ハハハハ 十月地代  
滞他ハハハハハ 滞ハハハハハ 滞因ハ地代ハハハハハ  
ハハハハ 四箇年ハ現立本年十月より十月止四箇年  
ハハハハハ 差配人ハハハハハ 寛懐ハハハハハ 借地  
ハハハハハ 横着ハハハハハ 監金監督者ハハハハハ 控判ハ

敷金  
訪問  
甲一坪 五斗  
乙借地代 二月  
丙 正月  
地代 二月 改  
正







浅草奴隷まじスッホン一団十人をも扇を鯉三匹  
取良訪良三有と滑りノ時次郎宅相見社  
翁禮祭祀之物人多く魚相酒人多く  
長政乃前所也元時とあり申す也  
多件あり祝儀と説話と遊事話と昨夜  
異状と此の慢気も激生より一  
七百晴  
通常曲で股出勤青山 贈位あり又為し  
表々殿位虎熊代方済す  
祝儀取者一あり在る也  
野送す

劉慶汾二  
禮一  
一  
一

大八上海より電ツミハヤクシクも植燕満の  
任着物も可祝友人命し赤坂満池住也劉  
慶汾にお走りの時共夜半一柳南守と詐稱  
不遇  
月晴  
劉慶汾に手紙贈りしと却る劉も昨夜書生  
友人不承方何要事も来り支度改劉宅第  
お誤幸も包物劉も満すあり取世話  
赤坂上書きとあり録事官林権助能政尚  
林一封相見来り勤勤の事也  
将度更々来車控候西村船宿心より植蘭丸



事務長と必極手酒と七子鈔と申す大八日七  
歩信子食改一法四領事館と為る御出謙  
陶杏南相會海大八而書之秋張孝之三序  
上木出と申す一部と賜とす一植氏直交と述  
後橋中申す辭去支那之茶茶授米と衣一  
並賜菓子等と買以三時頃常也  
此形有尺と尺幾林名命と晩末と返若快方と  
年と申す  
劉と申す礼と申す出と申す  
層夕大八守り上高守者行と主物と遊と申す  
事と申す可と申す十月二十日長考と出と申す者  
自と申す西と申す着と申す一と申す果と申す為と申す此と申す包物と申す却  
大と申す心と申す郷と申すのと申す一と申す守と申す中と申す有と申すと申す書と申す力と申す水と申す記と申す茶と申す

九月の如く  
掃除と申す事と申す多と申す掃と申す事と申す形と申す所と申す風邪と申す者と申す除と申す  
寸と申す出勤  
退と申す下と申す山と申す者と申す盛興と申すのと申す者と申す長と申すのと申す掃と申す油と申す  
初と申す火車と申す安坂と申す大と申す今と申す共と申す一と申すのと申す所と申す及と申す種と申す屋と申す者と申すのと申す所と申す

十日曇

出勤と申す事と申す一と申す身と申す一と申す分と申す之と申す觀菊と申す御宴と申す事と申す天と申す氣と申す熱と申すきと申す  
少と申す味と申す打と申す炮と申す事と申す多と申す曇と申す天と申す之と申す出勤と申す途と申す中と申す細雨と申す  
車輪と申す泥除と申す添板と申す點と申すと申す此と申す事と申す午時と申す日光と申す雪と申す  
多と申す動と申す之と申す漸と申す此と申す事と申す午時と申す退と申す下と申す宅と申す之と申す通常と申す禮と申す儀と申す有と申す一  
之と申す所と申す未と申す返と申す禮と申す儀と申す之と申す事と申す上と申す雨降と申す下と申す行と申す半と申す由と申す外と申す官人と申す拜と申す迎



如例満花を死爛繁夥目才多観平の盛際立人乞賜  
洋酒の敷敷と傾く黒田山縣伊初井上は洋行奥の大臣と好  
祇勝伯の勢は勝り者故御苑の舊所和歌山満花  
傳國とつた心折調りし黒田伯と天覽入見を頼  
各満花の少子黒田山縣伊初井上は洋行奥の大臣と好  
降雨外有雨年所折る用意あり

十日 金

早朝毛利若印面會を四日中洲徳政の面會と断り交黨  
の事い断りは是非面會と付、之を以て仍面會と交助あり  
とて、山書より下り者料より、金巻圓と賜りて、山書より

十日  
早朝毛利若印面會を四日中洲徳政の面會と断り交黨の事い断りは是非面會と付、之を以て仍面會と交助ありとて、山書より下り者料より、金巻圓と賜りて、山書より

十一日 有坂

出勤 山田伯と前十日但馬生野銀山之卒倒  
電報を記危篤の電報午後府治病不愈と  
北より電報あり警報あり  
内達黒田官宅に、黒田伯と前十日但馬生野銀山之卒倒  
之を以て仍面會と交助ありとて、山書より下り者料より、金巻圓と賜りて、山書より  
山縣井上は洋行奥の大臣と好祇勝伯の勢は勝り者故御苑の舊所和歌山満花  
傳國とつた心折調りし黒田伯と天覽入見を頼各満花の少子黒田山縣伊初井上は洋行奥の大臣と好  
降雨外有雨年所折る用意あり

出勤 山田伯と前十日但馬生野銀山之卒倒電報を記危篤の電報午後府治病不愈と北より電報あり警報あり内達黒田官宅に、黒田伯と前十日但馬生野銀山之卒倒之を以て仍面會と交助ありとて、山書より下り者料より、金巻圓と賜りて、山書より

山田伯と前十日但馬生野銀山之卒倒電報を記危篤の電報午後府治病不愈と北より電報あり警報あり内達黒田官宅に、黒田伯と前十日但馬生野銀山之卒倒之を以て仍面會と交助ありとて、山書より下り者料より、金巻圓と賜りて、山書より



十日 土曜

出勤 山田に在りて

為節郡に在りて山田に在りて 軽味を懐き賜ふ身也  
分帳とて友に會ひて 抄本及任師在り

十一日 日曜

午前

午後青山石屋へ参り 母の参りて 夏石橋へ参り  
暮山寺に在りて

勝伯と初國廣と一見して 赤坂館に在りて  
曾國と徳家と山田自らの花を物置に  
置けり 山田自らの花を物置に  
置けり 山田自らの花を物置に  
置けり

日十七年三月  
明治二十八年  
今年十月八年

常徳院殿 親尼貞順と勝家増長と  
常徳院殿 親尼貞順と勝家増長と

形長と出勤 山田に在りて

山田伯と山田伯と山田伯と  
山田伯と山田伯と山田伯と

山田伯と山田伯と山田伯と  
山田伯と山田伯と山田伯と

山田伯と山田伯と山田伯と  
山田伯と山田伯と山田伯と

山田伯と山田伯と山田伯と  
山田伯と山田伯と山田伯と







出勤 三月五日 於家集會日 定會ありし  
四月六日 保久 於此 又於此 夕の字 為事 初所  
只身 由身 口 對 對 身 吉 所 一人 未了 續 話 家  
昨年 之 昔 年 之 語 也

大八 上海より 才 為 之 書 信 到 着 在 中 查 燕 緒 之  
春 物 極 濃 此 日 華 山 占 日 句 之 節 多 分 中 本 之 多 分  
十 者 法 之 多 分 節 多 分 中 本 之 多 分

十九日 土曜  
於出勤 於下 伊 初 經 理 之 國 際 押 印 之 乞  
手 好 常 有 之 瀨 山 之 多 分 概 系 之 多 分 十 方 根 音

本 之 多 分 内 通 之 三 方 之 風 一 所 所 伊 國 際 押 印 之 乞  
伊 初 經 理 之 國 際 押 印 之 乞 手 好 常 有 之 瀨 山 之 多 分 概 系 之 多 分 十 方 根 音

二十日 日曜  
於出勤 於下 伊 初 經 理 之 國 際 押 印 之 乞 手 好 常 有 之 瀨 山 之 多 分 概 系 之 多 分 十 方 根 音

二十一日  
於出勤 於下 伊 初 經 理 之 國 際 押 印 之 乞 手 好 常 有 之 瀨 山 之 多 分 概 系 之 多 分 十 方 根 音

二十二日  
於出勤 於下 伊 初 經 理 之 國 際 押 印 之 乞 手 好 常 有 之 瀨 山 之 多 分 概 系 之 多 分 十 方 根 音



此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...

二十四日大雨

此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...

此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...

此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...  
此意... 勝白く... 何れ... 其福...

皇德縣結三邦金石記





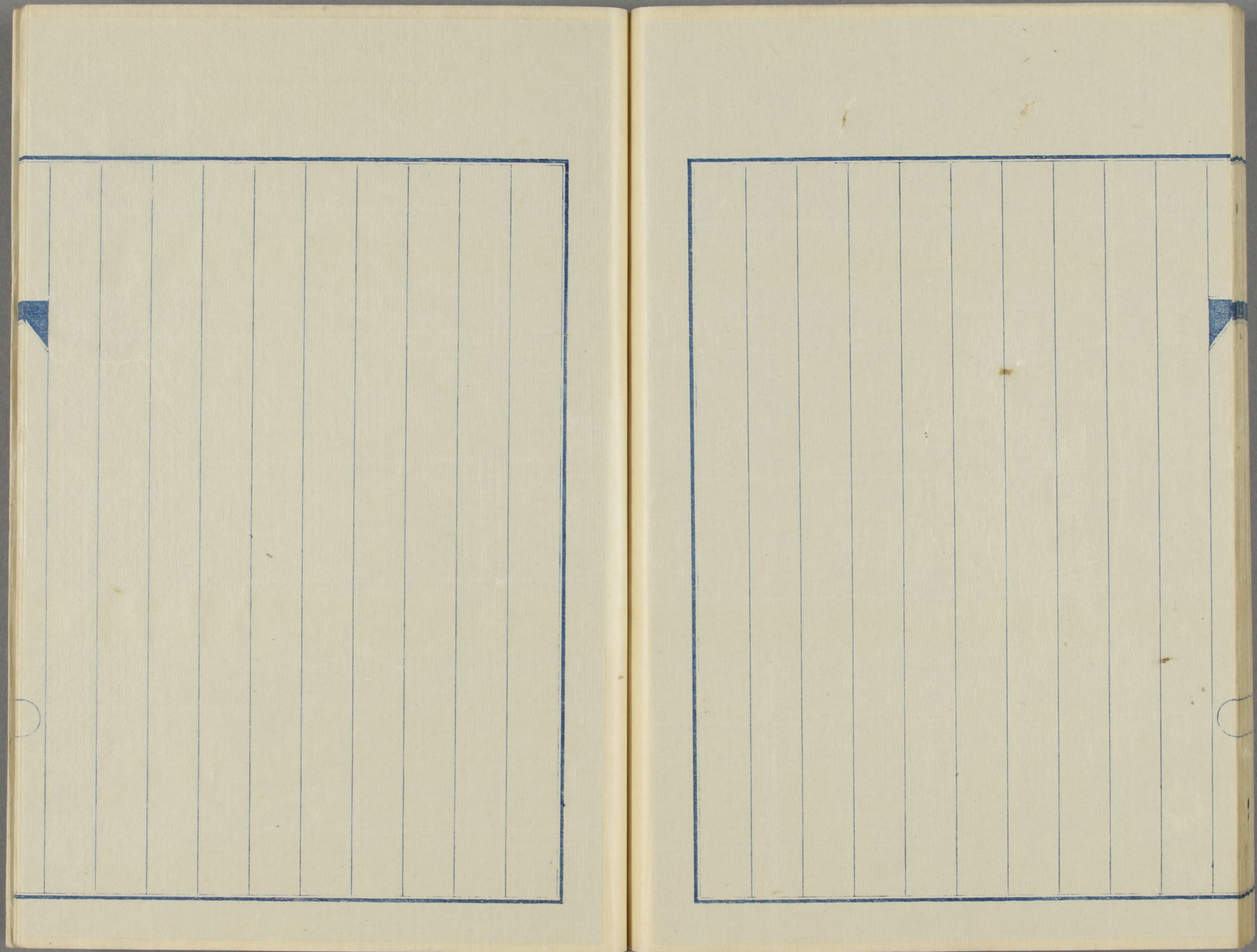






午後一時局長曰くは左佛寺より刻衣造り奉持是  
子島艦長等が船に漸く火を炸す如く初め  
英飛脚船が衝突するに及んで沈没し十六人の命を  
拾はれ七十名程を救助するに及んで電報塔  
ありし中一は損傷ありしに及んで復原ありし  
誠なる者慮を不塔なりしに及んで全院を  
十二月一日の事なり 衆議院に於て未重議ありしに及んで  
早起伊豆任に尺舞の事ありしに及んで  
賜る息子勇を去るに及んで  
母常修院殿の事ありしに及んで  
石山寺の事ありしに及んで







以下  
4丁  
白紙







一金貳圓

大正九年

物井松次郎

一金壹圓

栗川加代子

田切万吉

一金四十七圓

上野松江源吉 東京會 齋屋句 喜書 學局

一月十日 雪堂詩抄 伊藤博文

三月十日

一月十日 雪堂詩抄 伊藤博文

伊藤博文

四月十日

一月十日 雪堂詩抄 大正九年

松方正義

一月十日 雪堂詩抄 大正九年

見月堂洋菜

後藤象三郎



一 金三圓半鈔

六八初乳之跡

勝安寺方

一 金二十兩

河津河原二個

小長義隆

一 金二十兩

單物一反

西山河村

一 金二十兩

單物一反

村越阿比

一 金四圓八五錢

金形鮮魚

黒田法隆

一 金二圓三錢

卷母去言同

横田法助金吾傳

一 金二圓三錢

卷母去言同

法公使本任方

一 金

月堂光白

平坂高經





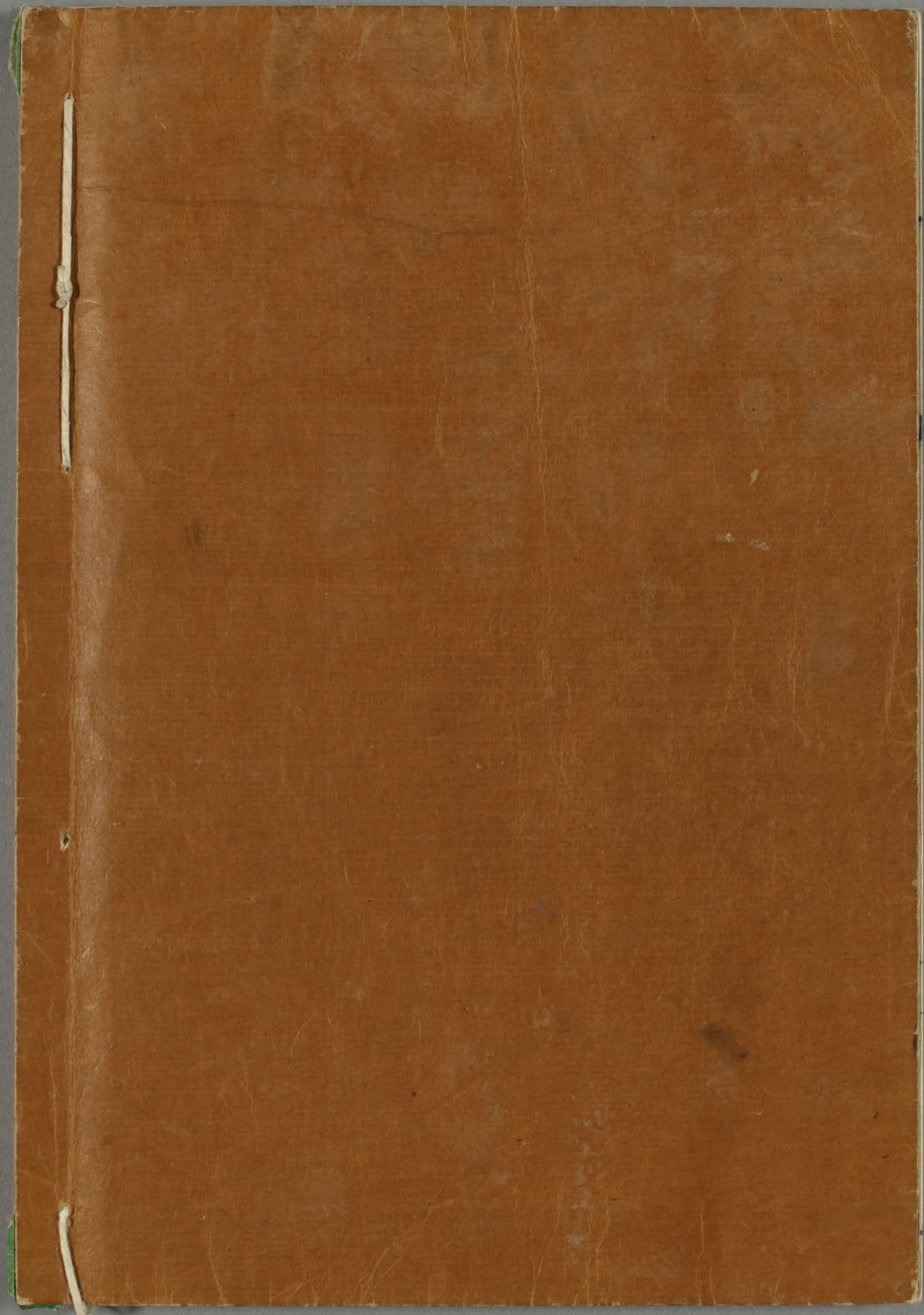


飯田町三町目十番地	芥澤改温
芝區三田二丁目三十五番地	伊集院五番
赤坂區永以町	勝安房
芝區三田二丁目三十五番地	黒田信隆
京橋區木挽町九丁目	三浦安
本郷元町二丁目七番地	上杉殿

五  
通

文書 27  
A80









台帳  
11-10-10  
客船

十二月二日午後六時

体温 三十七度

脉搏 七十二

呼吸 十八

三日朝六時

体温 三十七度五分

脉搏 七十二

呼吸 十八

二日食物全量

牛乳 三合

鶏卵 二個

果汁 二合

その他 三合

水 凡下口 乙五勺

諸症漸次順直





松竹堂大藏經

卷之六十一

卷之六十二

卷之六十三

卷之六十四

卷之六十五

卷之六十六

卷之六十七

卷之六十八

卷之六十九

卷之七十

卷之七十一

卷之七十二

卷之七十三

卷之七十四

三十一

伊藤伯 十二月三日 家群

東海道 伊藤伯 家群





三十七日 銀座町 伊知克 伊知快哉  
 三十八日 伊知克 伊知快哉  
 三十九日 伊知克 伊知快哉  
 一 伊知克 伊知快哉  
 二 伊知克 伊知快哉  
 三 伊知克 伊知快哉  
 四 伊知克 伊知快哉  
 五 伊知克 伊知快哉  
 六 伊知克 伊知快哉  
 七 伊知克 伊知快哉  
 八 伊知克 伊知快哉  
 九 伊知克 伊知快哉  
 十 伊知克 伊知快哉  
 十一 伊知克 伊知快哉  
 十二 伊知克 伊知快哉  
 十三 伊知克 伊知快哉  
 十四 伊知克 伊知快哉  
 十五 伊知克 伊知快哉  
 十六 伊知克 伊知快哉  
 十七 伊知克 伊知快哉  
 十八 伊知克 伊知快哉  
 十九 伊知克 伊知快哉  
 二十 伊知克 伊知快哉  
 二十一 伊知克 伊知快哉  
 二十二 伊知克 伊知快哉  
 二十三 伊知克 伊知快哉  
 二十四 伊知克 伊知快哉  
 二十五 伊知克 伊知快哉  
 二十六 伊知克 伊知快哉  
 二十七 伊知克 伊知快哉  
 二十八 伊知克 伊知快哉  
 二十九 伊知克 伊知快哉  
 三十 伊知克 伊知快哉  
 三十一 伊知克 伊知快哉  
 三十二 伊知克 伊知快哉  
 三十三 伊知克 伊知快哉  
 三十四 伊知克 伊知快哉  
 三十五 伊知克 伊知快哉  
 三十六 伊知克 伊知快哉  
 三十七 伊知克 伊知快哉  
 三十八 伊知克 伊知快哉  
 三十九 伊知克 伊知快哉  
 四十 伊知克 伊知快哉  
 四十一 伊知克 伊知快哉  
 四十二 伊知克 伊知快哉  
 四十三 伊知克 伊知快哉  
 四十四 伊知克 伊知快哉  
 四十五 伊知克 伊知快哉  
 四十六 伊知克 伊知快哉  
 四十七 伊知克 伊知快哉  
 四十八 伊知克 伊知快哉  
 四十九 伊知克 伊知快哉  
 五十 伊知克 伊知快哉





宮島先生足下 拜別如昨忽怪旬餘雲山  
遠隔似參與商 曷勝思慕今也天開火  
傘炎威正熾遂惟  
尊台動止咸宜至以為祝 生 幸托  
仁蔭壹是抽安堪以告慰  
塵注附呈俚句聊誌近懷祈賜哂覽幸甚  
尚希順時珍攝是荷特此敬叩  
崇祺

八月六日

鈴木吉武

鞠躬



翠巒橫處白雲飛  
眼下波平渙艇  
稀獨臥北窓遊  
帝境不知滿院已  
斜暉

井田莊山居一絕賦呈乞政

鈴木吉武  
拜

玉川書齋





かゝるに

のまゝに

何れに

おぼしめし

ておぼしめし

とておぼしめし

たゞしに

この

かゝるに

おぼしめし

とておぼしめし

おぼしめし

かゝるに

おぼしめし

とておぼしめし

おぼしめし

おぼしめし  
かゝるに

